



下境っ子

直方市立下境小学校
校長 塩田 朋久

創立150周年⑧ ～混乱の戦時教育～

ちょっと、歴史のお話になりますが。1929年(昭和4年)から、世の中が不景気になり、日本は「生きのびるには資源が豊かな満州(今の中国)の権利や利益を守る必要がある」という考えが広まり、1931年に満州事変が occurred。この日本がおこした事件は、世界から批判を受けましたが、日本は国際連盟を脱退し、1937年には日中戦争がおきてしまいました。そして、日本は中国から太平洋地域へと進出をはじめ、15年にわたる戦争を経験することになったのです。1945年(昭和20年)の終戦まで、下境小学校はどんな歴史を歩んだのでしょうか・・・。

太平洋戦争が始まった1941年(昭和16年)に、国は「小学校令」を改正して「国民学校令」を定めました。それにより、本校は「下境尋常小学校」から「下境国民学校」と校名が変わりました。戦時中の学校は、全国どこも同じで「戦争で勝つまでは」ということが絶対の目標とされ、戦争で勝つための考え方を教えるとともに、いろいろな訓練が繰り返されました。「下境校史」には、次のように記されています。

当時在学中であった人々は暗い思い出と、毎日が学習する状態ではなかったことのみが口にされ、誰もが同じことを語られるだけである。毎日が決戦体制であり、防空演習、避難訓練、食糧増産、出征軍人の見送り、などに終始した事実のみが思い出されるのである。特に、運動場を畑と化し食べることに毎日を費やした学校生活であったという。

学校生活の中で、教室における教師との心のふれ合いの教育に接した事実を語る人のないことから、いかに戦時教育が果たした役割を察することができる。



敵を倒す訓練(直方市史より)



←下境婦人会の防空・防火訓練(下境校校庭)

戦後の混乱期から・・・

1945年8月15日(昭和20年)に終戦。日本の国内状況は一変しました。それまでの軍国主義教育から民主教育へ変わっていきます。1947年に「日本国憲法」が公布され、同年「教育基本法」が制定されましたが、それまでの2年間は教育目標を失い、とても教育といえるものではなかったのです。

教育基本法が制定された1947年(昭和22年)4月1日に、本校は「直方市立下境小学校」と現在の校名に変更されました。

学校の制度も現在の6・3制となりましたが、義務教育の延長にともない、校舎不足の問題が生じました。

同じ年、新制中学校令により直方第一中学校を設立しましたが、一中は校舎がなかったため直方第二中学校内に間借りしていました。しかし、二中まで通うのが大変だったために、昭和23年、下境小学校の6教室を借りて午前と午後の二部に分けて授業をしていたのです。さらに、下境エリアでは



「本洞炭坑」が再開発されたため、再び児童数は増え(昭和23年には児童数800名を超える)、中学生の授業ともあいまって、小学生も二部授業となっていました。昭和24年に一中が完成したので、戦後はじめて、小学校としての正常な教育がスタートしたのです。そして、下境小学校は、算数(珠算)に重点を置き、輝かしい成績を残していました。(S24・S25 北九州・筑豊珠算大会2年連続優勝!) つづく